

(別紙)『日本書紀』が書いた瓊瓊杵尊の「天孫降臨」

2023.10.07 伊藤雅文

瓊瓊杵尊の天孫降臨は、高天原から狗奴国への降臨である

- ・高天原は、熊本を含む九州北中部にあった女王国（「魏志倭人伝」）
- ・初代天皇（彦火火出見尊＝神武天皇＝崇神天皇）は西暦301年に52歳で即位 → 逆算すると250年生まれ → 彦火火出見尊は瓊瓊杵尊が日向へ降臨後すぐに誕生するため降臨は250年の直前であったと推定
- ★上記と魏志倭人伝を考えあわせ、女王国が狗奴国に勝利あるいは有利な和平を勝ち取り、瓊瓊杵尊が現地責任者として派遣されたと考える。

瓊瓊杵尊の子である初代天皇が東征を完遂する

- ・その後、260年代半ば～後半に、動画でみた高天原出自の天穗日命・饒速日命による出雲の国譲りと大和への天孫降臨が発生
- ・初代天皇が吉備の事代主神勢力と同盟（280年代と推定）
- ・初代天皇が東征に出発（294年）
- ・吉備の事代主神勢力を主力とする軍勢により大和を制圧し即位（301年）

瓊瓊杵尊の天孫降臨譚には深みがないのは詳細な記録がなかったからである

『日本書紀』本文の記す瓊瓊杵尊の天孫降臨は極めて簡潔である。それは、神武天皇（＝彦火火出見尊）が東征を完遂して大和で即位した時点で、父瓊瓊杵尊の天孫降臨に関する詳細な伝承が手元になかったからであろう。

もちろん、瓊瓊杵尊の天孫降臨に先駆けた「国譲り（対狗奴国戦勝利）」の記録は高天原には存在したであろうし、天孫降臨の詳細な経緯は日向には存在したかもしれない。

しかし、瓊瓊杵尊は国譲りの詳細とともに日向へ降臨したわけではないだろうし、初代天皇は天孫降臨の詳細とともに大和へ東征したわけではないだろう。だから、初代天皇即位時の大和にはそのような記録・伝承が乏しかったと想像できる。

※一方、動画で見た饒速日命の「国譲り」と「天孫降臨」は当事者による現地（大和）の記録である。周囲には実際に目にした者も多かったと思われる。だから、饒速日命が初代天皇に帰順した時点で、そこには詳細な記録があったと想像できる。